

遺言

シリーズ～続 福音の力～

2021/10/10 敬老祝福礼拝

その後のパウロ

➤ 第三次宣教旅行

- 3年近くエフェソで宣教し、マケドニア・ギリシアの教会を廻って帰国の途に
- コリントから舟に乗るつもりだったが、「ユダヤ人の陰謀」(20:3)が発覚したので、フィリピから舟に乗ってトロアス(かつて幻を見た町)へ

➤ トロアスから海路シリアへ向かう

- パウロはエフェソには寄らずミレトスに行く
 - 「パウロは、アジア州で時を費やさないように、エフェソには寄らないで航海することに決めていたからである。できれば五旬祭にはエルサレムに着いていたかったので、旅を急いだのである。」20:16



エフェソ

第3宣教旅行

ミレトス

アンティオキア

エルサレム

古い伝説では、パウロはローマへの旅の後、地中海世界を広く旅して回ったとある。

ローマへの旅の出発点

大(地)中海

道旅行と

使徒言行録 20章17～38節

パウロはミレトスからエフェソに人をやって、教会の長老たちを呼び寄せた。長老たちが集まって来たとき、パウロはこう話した。「アジア州に来た最初の日以来、わたしがあなたがたと共にどのように過ごしてきたかは、よくご存じです。すなわち、自分を全く取るに足りない者と思い、涙を流しながら、また、ユダヤ人の数々の陰謀によってこの身にふりかかってきた試練に遭いながらも、主にお仕えしてきました。役に立つことは一つ残らず、公衆の面前でも方々の家でも、あなたがたに伝え、また教えてきました。神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証ししてきたのです。

そして今、わたしは、“霊”に促されてエルサレムに行きます。そこでどんなことがこの身に起こるか、何も分かりません。ただ、投獄と苦難とがわたしを待ち受けているということだけは、聖霊がどこの町でもはっきり告げてくださっています。しかし、自分の決められた道を走りとおし、また、主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。そして今、あなたがたが皆もう二度とわたしの顔を見ることがないとわたしには分かっています。わたしは、あなたがたの間を巡回して御国を宣べ伝えたのです。だから、特に今日はっきり言います。だれの血についても、わたしには責任がありません。わたしは、神の御計画をすべて、ひるむことなくあなたがたに伝えたからです。

どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。聖霊は、神が御子の血によって御自分のものとなされた神の教会の世話をさせるために、あなたがたをこの群れの監督者に任命なされたのです。わたしが去った後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。また、あなたがた自身の中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます。だから、わたしが三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。わたしは、他人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。

ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『受けるよりは与える方が幸いである』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」

このように話してから、パウロは皆と一緒にひざまずいて祈った。人々は皆激しく泣き、パウロの首を抱いて接吻した。特に、自分の顔をもう二度と見ることはあるまいとパウロが言ったので、非常に悲しんだ。人々はパウロを船まで見送りに行った。

自らの人生を振り返るパウロ

- 様々な困難にもめげず主に仕えてきた
 - 「自分を全く取るに足りない者と思い、涙を流しながら、また、ユダヤ人の数々の陰謀によってこの身にふりかかってきた試練に遭いながらも、主に仕えてきました。」19
- 福音を力強く証ししてきた
 - 「神に対する悔い改めと、わたしたちの主イエスに対する信仰とを、ユダヤ人にもギリシア人にも力強く証ししてきたのです。」21
- 責任を果たした
 - 「だれの血についても、わたしには責任がありません。」26

自らの人生を振り返るパウロ

- 神様に与えられた働きをやりぬいた
 - 「自分の決められた道を走りとおし」24
 - 「あの者は、異邦人や王たち、またイスラエルの子らにわたしの名を伝えるために、わたしが選んだ器である。」9:16
- 福音のためなら命すら惜しいとは思わない
 - 「主イエスからいただいた、神の恵みの福音を力強く証しするという任務を果たすことができさえすれば、この命すら決して惜しいとは思いません。」24

長老たちへの勧告①

- 自分自身と教会に気を配りなさい
 - 「どうか、あなたがた自身と群れ全体とに気を配ってください。」28
- 教会に起こるであろう混乱
 - 「わたしが去った後に、残忍な狼どもがあなたがたのところへ入り込んで来て群れを荒らすことが、わたしには分かっています。」29
 - 「あなたがた自身の中からも、邪説を唱えて弟子たちを従わせようとする者が現れます」30
- 警戒していなさい
 - 「わたしが三年間、あなたがた一人一人に夜も昼も涙を流して教えてきたことを思い起こして、目を覚ましていなさい。」31

長老たちへの勧告②

- 神と御言葉に委ねる
 - 「そして今、神とその恵みの言葉とにあなたがたをゆだねます。」32
- 御言葉により成長し、信仰を全うしなさい
 - 「この言葉は、あなたがたを造り上げ、聖なる者とされたすべての人々と共に恵みを受け継がせることができるのです。」

長老たちへの勧告③

➤ 自らも働いてきたパウロ

- 「わたしは、他人の金銀や衣服をむさぼったことはありません。ご存じのとおり、わたしはこの手で、わたし自身の生活のためにも、共にいた人々のためにも働いたのです。」33-34

➤ 与える人になりなさい

- 「あなたがたもこのように働いて弱い者を助けるように、また、主イエス御自身が『**受けるよりは与える方が幸いである**』と言われた言葉を思い出すようにと、わたしはいつも身をもって示してきました。」35

人生のステージ(チャン先生による)

- **～30才まで: 発展する時代**
 - ～10: 発育期
 - 10代: 発見期
 - 20代: 器を大きくする時期
- **30～60才: 強化する時代**
 - 30代: ギブアンドテイクの時期
 - 40代: 与える時期(リーダーシップを発揮する)
 - 50代: メンタリングの時期(若い世代に伝える)
- **60才～: 深める時代**
 - 60代: 新しい地平線(チャンス)の時期
 - 70～: 優秀の美を飾る時期(相続の時期)

パウロの遺言

主の道を悔い
のないよう走り
抜きなさい

正しい教えから
逸れないよう気
をつけなさい

主の御言葉に
寄り頼み続け
なさい

与える人になり
なさい